

詩集

魂の歌が
聴こえる

紀の崎 茜

青山ライフ出版

はじめに

夫の死後のことでした。

夫を思っていると、突然スマートフォンがチャリンと鳴り、続いてブーブーと鳴ったのです。

とっさに夫からの信号ではないかと気づきました。

それと言うのも、夫がまだ生きていた時、私は夫に

こう言いました。

「死んでも、生きているって、肩でも叩いてね」

私は確信したのです。

夫は生きている——と。

私は幽体離脱を幼いころから度々体験していて、霊界との接点があるのかもしれない。

私の師であった詩人の宗左近先生は、生前私のことを巫女と呼び、友人仲間もこうした私の存在を認めています。

私は夫との交信に五円玉を使うことにしました。以前読んだ、小野寺S一貴著『妻に龍が付きまして…』(東

邦出版)に五円玉で占うことが書いてあり参考にしたのです。

まず想定した質問にその答えを待つもので、五円玉の穴に凧糸を通して吊るし、五円玉が右に揺れるとイ・エ・ス、左に揺れるとノ・ーと決めました。

本書の目的は、夫との交信を通して、魂の本質をさぐることにあります。

夫の魂は、思いがあるだけで、言葉にして話すことはできません。そこでその思いを、私が翻訳し詩集にいたしました。

目次

はじめに	2
目	14
私	16
星	18
この世	20

劇場	音楽	存在	存在	あなた	存在	魂	永遠とは	天国	青い光	光
.....
42	40	38	36	34	32	30	28	26	24	22

練習	道	苦しみ	死	木	嘘	魂	旅	哀しみ	詩人よ	思い
.....
64	62	60	58	56	54	52	50	48	46	44

地球	86
宇宙への旅	84
予告	82
お守り	80
黒	78
景色	76
年齢	74
気づき	72
ペット	70
意識	68
世界	66